

事務事業名		大船渡市シルバー人材センター補助金交付事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業						
政策体系	政策名	044 安心が確保されたまちづくりの推進			事業期間		予算科目						
	施策名	133 高齢者福祉の推進					会計	款	項	目	事業		
	基本事業名	011 生きがいのある生活づくり					01	03	01	05	03		
根拠法令	高齢者等の雇用の安定等に関する法律												
所属	部課名	生活福祉部保健福祉課			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 不明 年度～) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入								
	係名	高齢者福祉係	電話	26-2943									
			内線	直通									
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)								全体計画 (※期間限定複数年度のみ)					
シルバー人材センターは、おおむね60歳以上の高齢者を対象として就業を通じた社会参加による生きがいの充実を図り、もって高齢者の福祉の増進を目的に、登録会員の経験、技能、能力を生かした就業機会確保事業を推進しており、この事業について国、市において、支援を行っている。 主な業務は、①シルバー人材センターからの補助金交付申請の受理、②内容審査、③支払いであり、事業費はシルバー人材センターへの補助金である。								総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金			
										都道府県支出金			
										地方債			
										その他			
										一般財源			
										事業費計 (A)			
人件費	正規職員従事人数												
	延べ業務時間												
	人件費計 (B)				0								
	トータルコスト(A)+(B)				0								

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段 (主な活動)		名称	
前年度実績 (前年度に行った主な活動)		単位	
シルバー人材センターの補助金交付申請を精査し、会員数や事業活動規模により区分される国の補助金算出基準に合わせて補助金額を決定し、交付する。		ア 補助金交付金額	
今年度計画 (今年度に計画している主な活動)		イ	
前年度に同じ。		ウ	
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		(6) 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
シルバー人材センター会員		名称	
		単位	
		カ 会員数	
		キ	
		ク	
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)		(7) 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	
シルバー人材センターの運営を支援し、高齢者の就業機会の確保、拡大を図ることにより、就業を通じた生きがいの充実・健康づくりにつなげる。		名称	
		単位	
④ 結果 (基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		サ 就業延人員	
生きがいを持って暮らせる。		人日	
		シ 就業率	
		%	
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円	13,300	13,200	13,000	13,000	13,000	13,000	
		事業費計 (A)	千 円	13,300	13,200	13,000	13,000	13,000	13,000	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時 間	3	3	3	3	5	5	
		人件費計 (B)	千 円	12	12	12	12	20	20	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	13,312	13,212	13,012	13,012	13,020	13,020	
⑤活動指標			ア	円	13,300,000	13,200,000	13,000,000	13,000,000	13,000,000	
			イ							
			ウ							
⑥対象指標			カ	人	506	477	443	465	460	399
			キ							
			ク							
⑦成果指標			サ	人日	8,994	8,904	9,020	8,593	34,518	34,795
			シ	%	85.6	86.7	88.5	84.3	79.8	91.0
			ス							

事務事業ID	0142	事務事業名	大船渡市シルバー人材センター補助金交付事業
--------	------	-------	-----------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

高齢者等の雇用の安定等に関する法律（昭和46年法律第68号）に基づきシルバー人材センターが設立され、補助を開始した。何年度から補助を開始したか不明（昭和63年に法人化。平成11年度に連合会が発足）

② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

事業開始当時は経済も順調であり、高齢化を迎えた時期であった。現在、少子高齢化の急速な進展に伴い、労働力人口は数年前から減少が始まっており、国では高い就労意欲を持つ高齢者が社会の担い手として活躍できるよう一般労働者派遣事業の届出制等の法律改正を行ったところである。景気は回復してきていると言われているが、気仙地域の有効求人倍率は以前一倍を大きく下回っており、特に高齢者にとっては厳しい状況である。会員数、受託件数及び受託金額からもシルバー人材センターを取り巻く財政環境、経済・雇用情勢は厳しい状況である。

③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？

今後ますます高齢化が進み、シルバー人材センターの担うべき役割が増大していくことが予想され、事業拡充・補助金の増額を求められている。また、市が外部発注する業務について、シルバー人材センターで実施可能なものは可能なかぎり活用するよう要望がある。

2 評価の部 (SEE) ＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由] なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由] 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒ [理由] 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）
	⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？

事務事業ID	0142	事務事業名	大船渡市シルバー人材センター補助金交付事業
--------	------	-------	-----------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
<table><tr><td>① 目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	景気は回復してきていると言われるが当地域の雇用情勢は未だ厳しいものがある。シルバー人材センターの就業状況が勤労意欲のある高齢者のどれほどの満足度となっているのかが重要であると考え。また、介護保険制度の中で予防事業の重要性が言われる中、本事業もそれら予防に資するものであり、こうした面からも引き続き必要な支援をしていくべきであると考え。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																				
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)	(4) 改革・改善による期待成果																					
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☒ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) シルバー人材センターを支援することは、就労意欲のある高齢者に就業を通じてそれぞれに「生きがい」を見出してもらい、もって自己実現を図ることを目的としており、その事業費は概ね国の基準どおりで妥当であると考え。ただし、この事業の意図・成果とする高齢者の生きがい・健康づくりに関しては、それをより向上させるための手立てを検討する余地はあり、現在の配分率の設定、事務員配置、事業の普及啓発活動や会員の福利厚生事業等について検討すべきであると考え。	☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)											
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																		
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																						
シルバー人材センターは独立した団体であり、センター運営に関することは理事会で決定される。補助金を交付する側として、上記改善に努めるよう示唆していく。																						

(職 名) ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	保健福祉課長
-------	--------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

- ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)
- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている
- ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)
- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- | | | |
|---------|--|----------------------------------|
| ① 目的妥当性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ② 有効性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ③ 効率性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ④ 公平性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |

(3) 評価結果の根拠と理由

高齢者の生きがい創出のための有効な事業であり、目的も妥当である。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- | | | | | |
|---|-----------------------------|--------------------------------|----------------------------------|--|
| ☐ 廃止 | ☐ 休止 | ☐ 目的再設定 | ☐ 事業統合・連携 | ☒ 現状維持 |
| 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) | | | | |

(上記方向性に対する具体的な内容)

生きがい対策として、一定規模の補助金を支出することは妥当であるが、今後、国等の動向により補助金の変動があった場合には、適切な対応が必要である。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持	●	○	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項